

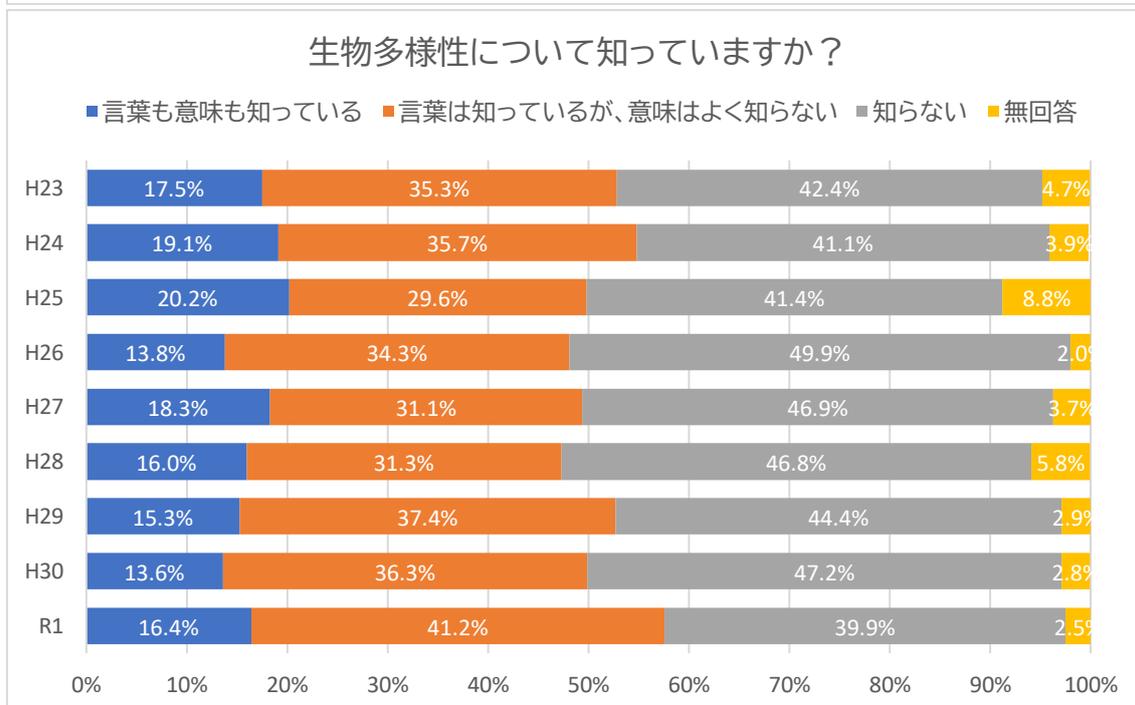
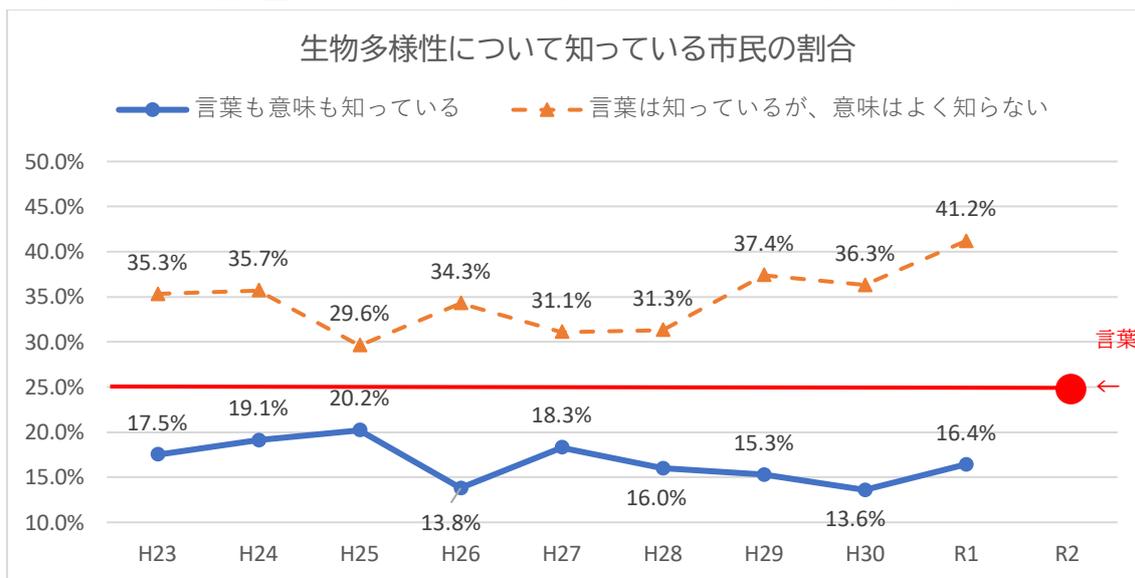
### 生物多様性認知度の推移

■目標値

基本戦略 2（～学び、つながる～）の中で「生物多様性について知っている市民の割合」を H26 年 13.8%から R2 年 25.0%を目指す。

■調査対象

市民 3000 人(住民基本台帳より満 20 歳以上 89 歳以下の市民を無作為抽出)



●「生物多様性について知っている」市民の割合は昨年から 2.8 ポイント増加。

平成 29 年から「言葉は知っているが、意味はよく知らない」割合が増えてきているのは、地道な普及啓発活動により「生物多様性」というワードが浸透してきていることが考えられる。

■くまもと C 生物多様性シンポジウム(R2.2.20 開催)

テーマ「どうしたら伝わる？生物多様性」

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web と会場での LIVE 配信という形で実施。

Web には市民団体、高校、事業者、行政から 40 名、会場には市民や専門家など 18 名参加。

【参加者からの意見(一部抜粋)】

(生物多様性を何で知ったか)

- ・仕事上、生物多様性に関わるので知った
- ・県 RDB(レッドデータブック)
- ・NEWS
- ・大学のオープンキャンパス
- ・学校(生物基礎)の授業
- ・今回のシンポジウム
- ・大学で言葉は知って、社会人で勉強した

(生物多様性の認知度を上げるためにはどうしたらいいか)

- ・地道な普及啓発が重要
- ・ジビエ料理を取り入れて伝える
- ・興味がない人や企業、市役所内の他部署を巻き込む
- ・生物多様性の言葉の意味が難しいので、体験させることが重要
- ・学校で配布しているタブレットを活用
- ・CM・YouTube・SNS を活用
- ・動植物園・博物館での観察会や工作会など身近なイベントに参加する
- ・食事の時にいただきますと言う意味(命をいただいていること)を身近なことと捉える
- ・昆虫観察会を実施し、身近な昆虫から生物多様性を学ぶ
- ・江津湖・立田山など自然豊かなフィールドに子どもたちを連れていく